

活動報告書

報告者氏名:平川千佳、森崎恭輔 所属:福岡市立屋形原特別支援学校 記録日:2014年2月26日

【対象児(群)の情報】

- ・学年 中学部3年生 男子生徒(A男) 、 (高等部1年生 女子生徒(B女)・・・facebookのみ)
※B女は「魔法のじゅうたんプロジェクト」の対象生徒
- ・障害名 自閉症、知的障がい
- ・障害と困難の内容 (A男)
口頭での質問の理解が難しい。理解できた質問に対し、単語で答えることができる。多くのことにおいて、自分から表現することが少ない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
facebook に投稿することで、出来事などを単語ではなく文章で表現できるようになる。
facebook を通し、コミュニケーションを楽しめるようになる。
- ・実施期間 平成25年7月～現在
- ・実施者 平川千佳、森崎恭輔
- ・実施者と対象児の関係 学級担任、教科担当

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況 (A男)

パソコンは好きで、家では一人で扱って楽しんでいる。干渉されることを好まず、保護者は距離を取っており、何をどのように扱っているのかわからないとのことだった。

文章表現が苦手であり、質問に対し、単語のみで返答する。

口頭での会話は苦手であり、口頭での質問の意味を理解する

ことは難しい。保護者は、紙面で選択肢を提示し、

本生徒の意思確認を行っている。

・活動の具体的内容

- ①facebookを通し、日々の活動を文章で表現する。また、コメントのやり取りを行い、コミュニケーションを楽しむ。
- ②帰宅報告を電話で行うことを通し、見えない相手と口頭で会話を行う経験を積む。(9月～)

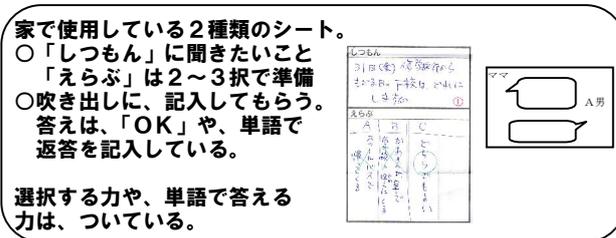
・対象児(群)の事後の変化

- ①登校後、毎朝 facebook にアクセスすることが習慣化した。自分の投稿に対するコメントなどを確認し、そのコメントに対しコメントを返すようになり、facebook を通してのコミュニケーションを楽しんでいる。取り組み開始時に、単語ではなく文章で表現するように指導したところ、その後も自分なりに文章にして投稿している。文章表現において文法的な間違いはまだ多いが、自分の気持ちや出来事を文章で表現しようとする姿は、会話では見られない姿である。
- ②帰宅報告の電話は1回だけかけてきて、メールでも報告ができるようになった。電話での会話の中で行う教師からの質問は、毎日話題を変えて行っているが、質問に対し、落ち着いた声で適切な返答ができるようになってきた。また、相手に伝わるよう、はっきりとした声でゆっくりと話す習慣が、少しずつ身についてきている。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①友だち(A男、B女)が、facebook のグループに加わったことで、どちらの生徒も意欲的にアクセスをするようになった様



を感じる。

②電話をかけることや受けることに、過剰な意識が薄れ、落ち着いて対応ができるようになってきたようである。

・エビデンス(具体的数値など)

①A 男 H25.6 末 facebook 開始。投稿は、学校での学習時間にのみ、教師から促されて行っていた。

週末は持ち帰っており、投稿を促すが、投稿をすることはなかった。コメントは、学習時間に教師が横で行くと、そのコメントに対し、facebook 上で会話をするように、コメントを返すようになってきた。

H25.7.19
魚釣りゲームをしたことを
A 男がfacebook に投稿



投稿するようになることが最優先なので、「魚釣りを」となっていることに対し指導はしていない。隣に座り、「何匹釣れたかな?」とコメントを送信。読んだ A 男が、隣で「5匹」と答えたので、「5匹つれましただね」と言うと、「5匹つれました」とコメントした。

投稿する内容については、〇〇について投稿して、と提案。コメントは、隣で単語での返答を文章にして伝えるようにした。

H25.7.24 初、家での投稿!しかし、コメントに対する返事はない。夏休みを通し、アクセスは行っていない様子。

H25.9 B 女が facebook グループに参加。

B 女からのコメントに対し、返事を行うように促した。その後、自主的に facebook にアクセスし、コメントをする姿が見られるようになり、現在は習慣化している!

H25.2 「卒業生を送る会」の投稿
B 女が、「いいですね〜」とコメントしている
A 男は、「B 女さん コメントありがとうございます」
「平川先生へ 校歌を歌いました」
と、文章で、誰からもアドバイスされずに
コメントをしている!



B 女 H24 年度、魔法のじゅうたんプロジェクトでスマートフォンを使っていた。

H25.4 に、高等部に進学。高等部進学と同時に、家庭でスマートフォンを購入してもらい、中学部で行っていたブログを、自主的に継続している。

4 月以降の本生徒のブログへの投稿は、

4/5, 4/10, 4/13, 5/2, 5/5, 5/30, 7/27, 8/26 の8回である。

ブログを継続していることを保護者から聞き、教師がコメントをしているが、コメントに対してのレスポンスはない。

更新記事	}	本生徒の投稿
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出 (08/26) 部活動(吹奏楽部) (07/27) 休校中一人の誕生日 (05/30) 誕生日 (05/05) 春休みの思い出 (05/02) 		
更新コメント	}	コメント 教師からのみ
<ul style="list-style-type: none"> もしも先生は夏休みの思い出 (08/26) なかせんせい夏休みの思い出 (08/26) もしも先生は部活動(吹奏楽部) (08/07) 守田先生、部活動(吹奏楽部) (08/05) なかせんせい部活動(吹奏楽部) (08/03) もしも先生は一人の誕生日 (08/02) もしも先生は誕生日 (06/21) もしも先生は誕生日 (06/05) 		



H25.9 facebook のグループに参加

投稿は、2回のみ(9/28, 11/23)。しかし、他のメンバーからの投稿に対しては、すべての投稿に対し、

「いいね」と、コメントを行っている! また、B 女が行ったコメントに対し、何らかの返事をしておくと、その返事に対するコメントがなされている場合がある。これは、ブログでの取り組みでは見られなかったことである。

②H25.9 自主通学開始。スマートフォンを使い、バスの運行状況を把握(アプリ: バスいまどこ)している。

帰宅報告を、電話で行うようにした。

取り組み開始当時は、電話が繋がらない(教師が電話に出ない)場合、繋がるまで次のこと(帰宅後、行うことの順番が本人の中で決まっている)に進めず、教師が電話に出るまで時には10回以上かけ続けていた。

そこで、電話が繋がらない場合は、メールで帰宅報告(「家に着きました」を送信する)ようにした。

しかし、やはり電話が繋がるまで、何度も電話とメールを繰り返し送ってきていた。



現在は、電話もメールも1回のみ。教師が電話に出られないときに、電話ができるタイミングでかけ直しても、すぐに出ないこともある。その後着信に気づくと、かけ直してくるようになった。

電話での会話は、開始当時、厳しいと感じられたため、流れを作った。

A男 : A男です。(自分の名前を名乗る)
家に着きました。
教師 : お電話ありがとう。
明日も元気に学校に来て下さい。(←会話終了の合図)
A男 : さようなら
教師 : さようなら (この後に電話を切る)

電話に慣れてきた頃から、「今日は晴れていましたか？」など、の会話を増やしていった。会話の内容に関するエピソードは、後述。現在は、毎日少なくとも3点以上について質問形式で会話を行っている。

・その他エピソード(画像などを含めて)

①保護者に facebook のグループに加わってもらうことで、取り組みの様子をリアルに伝えることができた。

②・電話で会話をしているが、取り組みを開始した当初、

A男の返答が聞きとれず、何度も聞き返し、最後には教師の方で、話題を当たり障りのないものに変えることもあった。質問に対する返答が聞きとれずに、A男が自信を失い、電話での会話を拒否するようになるのではないかという、不安を感じていた。

ある日の電話での帰宅報告での会話

A男 : A男です。家に着きました。
教師 : 明日はどこかに行きますか？
A男 : 行く！
教師 : どこに行きますか？
A男 : ☆※□公園！
教師 : どの公園？
A男 : ☆※□公園！
教師 : そう。いいね。気をつけて行ってね。

学校での会話において、A男の話し方は、少し早口であり、若干聞き取りにくい感じはあったが、電話で会話をするようになり、聞き取れないことが多々あることに気付いた。原因がなかなかつかめなかったが、ある日、A男が話をする際、口の形があまり変わっておらず、ま行・ば行を発音する際も、口を閉じずに話していることに気付いた。そこで、ま行・ば行を発音する際は一度口を閉じることを意識することと、他の音も口を大きく動かすことを伝え、発音練習を行った。以前は、聞き取れないことを避けるため、電話での話題は答えが想像できる物にとどめることが多かったが、現在は聞き取れないことが減ってきたため、あまり気にせずに話題を提供できるようになってきている。

・自信をつけたことで、他の様々なことにも意欲的に取り組めるようになった。

現在、近くの生協からの簡単な作業を学校で行っており、できあがった物を、毎日一人で届けに行っている。

③脳トレゲームを学習で行っている。ゲームに対する意欲は低く、のめり込むことがないことは安心できることである。

あみだくじ、不等号の意味を、ゲームで新しく出てきた際に教えた。何度か繰り返すうちに理解し、いつの間にかクリアし、次に進んでいる。四則計算は、加算のみもともとできていたが、減算の問題も時間内でクリアできるようになっており、計算の仕組みが理解できるようになってきているようである。